

カンスンパ中等学校でおこなわれた プラスチック製品、なかでもプラスチック袋の利用が 世界に及ぼす悪影響について意識を高める 啓発アクションについての報告

カンスンパ中等学校は大変大規模な学校です。2014年に「エコル・ド・ソリダリテ（連帯の学校）」会が校舎建設の依頼を受けたときは、234人の生徒が通学していました。2016年にさらに各4教室の校舎を2棟建てたのち、生徒数はまず900人に増え、今年はおよそ1700人が32教室で学んでいます。

第1回ワークショップ - 2020年2月1日

各クラスから2人の代表がワークショップに参加しました。フランス語、哲学、生物、地理、そして社会の先生たちも関心があったので、参加させてもらいました。学校側は、校庭でものを売っている女性たちの参加を義務付けました。

最初のうち、生徒たちは控えめな態度でした。この学校にとってゴミは大問題です、なぜなら、生徒たちはところ構わずゴミを捨てるからです。それで生徒たちは用心深かったのです。けれども映画「プラスチック・プラネット」を観た後は、自分の問題として感じ、ショックを受けた反応でした。司会のゴドヌー氏が、プラスチックが人や環境に引き起こしている問題を説明すると、生徒たちは自分のクラスにこの問題を伝える役目を果たさなければならないと実感しました。

生徒たちはみな休み時間に、プラスチック袋に入れてもらった熱い食べ物をそこから直接食べているので、健康を害する恐れがありました。熱によってプラスチックから環境ホルモンが発生し、長期的には不妊や肥満、ガンになったりします。人工毛エクステンションの使用によって頭皮に湿疹ができたり、抜け毛や頭痛の原因になります。生徒たちはこれをメモしていました。

けれども、被害を受けるのは人間だけではありません。プラスチックが海に入ると、波によって細かくなり、魚や動物が間違えて飲み込みます。魚や鳥は胃がプラスチックで一杯になって餓死してしまうのです。ゴミ捨て場にあるプラスチックは400年たたないと分解しません。コトヌーのような街では地中深くプラスチックを埋めるため、雨季には水が地中へ浸透せず洪水になってしまいます。人工毛はきちんと処理されていないと、鶏の足にからみついて血行を悪くしてしまいます。鶏はその結果、足を失くすのです。ゴミが燃やされると、毒ガスが出て、肺がんの原因になったり、オゾン層を破壊したりします。オゾン層が破壊されると、地上は温暖化に悩まされます。生徒たちはプラスチックが未来への重要な問題であることを理解しました。

それからプラスチックを何で代用すればいいか、話し合われました。はじめのうち関心を示さなかった生徒たちも、この問題を知って、まじめに取り組まねばならないと了解しました。それから個人個人のふるまいをどのように変えるかということになり

1. ゴミを減らす
2. 買い物袋には布、紙またはラフィアヤシ製を使う
3. 買い物の際、ボウルやビンを持参する。

という案がでました。

第2回ワークショップ - 2020年2月5日

代表の生徒たちは両親やクラスメイトと話をしました。プラスチックを使わないことに対して、親たちは比較的寛容でした。彼らはプラスチックがなかったころ、他のモノを使って生活していたことを覚えていました。お母さんがたは、プラスチックで包装された食品は買わない、そしてアカサ（トウモロコシのでんぷんで作ったゼリー）は葉っぱに包まれていることに注意しようと言いました。しかし、クラスメイトたちはそこまで理解がありません。彼らにとって友人が話したことは楽しくなかったのです。一番効果的だったのは、プラスチック袋の環境ホルモンが熱で食べ物の中に入り込み、それを一緒に食べると将来不妊になってしまうかもしれないという説明でした。

このような体験後、生徒たちはさらに大勢に向けた啓発祭のために劇を作ることになり、クラスメイトたちの心にも届くよう、熱心な試行錯誤と練習が生徒たちの満足のいくまで繰り返されました。

大啓発祭 - 2020年2月7日



パン類を売る女性は最初のお客にプラスチック袋に商品を入れて渡します。2番目のお客は布袋を持参していて、プラスチックはいらないとしました。売り手はちょっと混乱しています。



お客は売り手に説明をし、売り手は了解しました。彼女は商品を布袋に入れました。そのお客が去ると、劇の司会が声を上げて、村長の説明会に住民を招待しました。



村長が説明役を呼ぶと、この人はプラスチックがもつ問題を説明し、解決法を紹介しました。



説明役はさらに住民にベナン共和国の新しい法律について話しました。プラスチック袋の使用を厳しく処罰するというものです。単にプラスチック袋をもっているだけで高い罰金を払わせられることもあるのです。



そこに警官が登場して、取り締まりは厳しくおこない、賄賂を使って罰金から逃れられることはできませんと言います。結局すべては私たちの世界にかかわり、子供たちやその子供たちが生きてゆける世界の問題だからです。

説明役はおしまいこの劇の中ではっきりしなかったことをいくつか話し、聴衆の質問、とくに代用品の問題について答えました。

最後にこの学校に 6 個のゴミ箱が寄付されました。一年間、不定期に学校の状態を確認し、もし校庭が清潔でプラスチックが見つからなかったら、「プラスチックフリーの学校」という証書の形でお墨付きを上げましょうということでこの会は終わりました。

